エンバ美術賞展各地で開催
芦屋・東京でオープニング

●エンバ美術賞芦屋展（於芦屋市民センター）

挨拶をする本間正義氏

審査講評　木村重信氏

松永精一郎芦屋市長

エンバ美術展代表植野藤次郎氏　右二人目

加藤信之介芝屋市会議長

現代美術の秀作を集めてジャパンエンバ美術賞展がいま、全国各地で開催されている。

まず、現代美術にとってゆかりの地といえる芦屋で12月13日(水)～12月18日(月)芦屋市民センター・ルナ・ホール(小)で開催され引続き東京青山の小原流会館で12月20日(水)～12月27日(水)展覧され話題をあつめた。開催に先だって、12月13日午後3時からジャパンエンバ美術コンクール入賞、入選者表彰式が芦屋市民センターで盛大に開催された。表彰式では審査員講評を木村重信氏(美術評論家)が行ない、挨拶を松永精一郎氏（芦屋市長）と加藤信之介氏（芦屋市会議長）の両氏が芦屋を代表して行ない「吉原治良氏が拓いた芦屋市展が現代美術、具体美術の活動の拠点になり、今ここに現代美術最高のコンクールであるエンバ美術賞展のスタートを芦屋で飾っていただけたことは本当に喜ばしい」と祝いの言葉を贈った。本間正義氏（国立国際美術館長）の祝辞のあと、表彰式が行われ、大賞

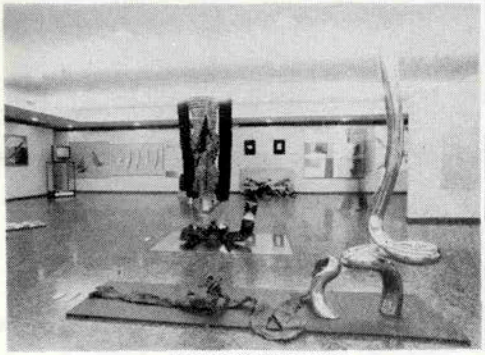
●エンバ美術賞東京展（於小原流会館）

挨拶をする審査員　針生一郎氏

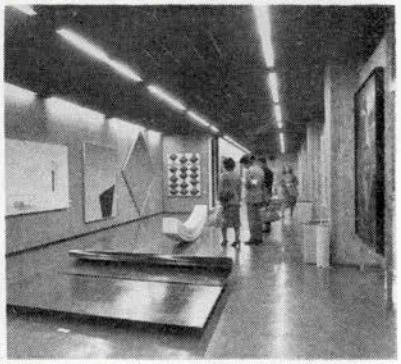
園田外務大臣夫人　天光光さん

日本ネオトロピカル　森喬一氏

喜びの入賞者、インタビューを受ける楠田氏


エンバ美術展東京展会場

東京会場で大賞受賞の楠田氏


エンバ美術展芦屋展会場

（エンバ賞）を獲得した楠田信吾氏（京都市）に賞金３００万円がジャパンエンバ美術コンクール代表植野藤次郎氏から手渡された。楠田氏も賞金を手にして流石に嬉しそう。作品を創った仲間と肩をたたき合っていた。佳作賞は木村光佑（茨木市）相川繁隆（高岡市）田中一好（神戸市）浜西勝則（川崎市）の四氏に賞金それぞれ50万円が贈られた。また、小林正和（京都府）の作品が京都国立近代美術館賞（買上）。中村滝雄（川口市）は国立国際美術館賞（買上）。ほかに一圓達夫（長岡京市）月刊神戸っ子賞（買上）、花田勝太郎（土岐市）がＵ氏賞（買上）。各買上賞受賞者には目録が贈られた。最後に入選者を代表して嶋本昭三（西宮市）が賞状を受けた。乾杯の音頭をハナヤ勘兵衛氏がとり、和やかな懇談の集いが続いた。

東京会場（小原流会館）のオープニングは12月20日同館10階ホールで開催された。開会は来賓代表として園田直外務大臣夫人が挨拶「美術展を拝見して非常に深い感動を覚えた私も何か創作をして出品したい」と熱烈な賛同の言葉を贈り、日本ネオトロピカル協会会長、森喬一氏が文化の時代にふさわしい催しと激励。審査員を代表して針生一郎氏（美術評論家）が挨拶。東京会場の開会が祝われた。

「風見鶏の館」の居間の奥にはトーマス氏の娘、エルゼ・カルボー夫人から贈られた胸像やテーブルなどが展示されている。

●北野町公開異人館ルポ
新異人館事情

今、神戸で一般に公開されている異人館は六棟ある。東から「旧ハンター邸」（王子動物園東側）「旧ドレウェル邸」（北野町）「旧トーマス邸」（北野町）「旧シャープ邸」（北野町）「旧ハッサム住宅」（相楽園内）それと最近北野町からポートアイランド北公園へ移築された「日本郵船生田寮」がそれだ。

ここでは、内部も自由に観覧できる四つの異人館を紹介しよう。いずれも入場無料。

神戸の異人館のシンボル——風見鶏の館

旧トーマス邸、元中華同文学校寮、というよりも〝風見鶏の館〟としてつとに有名なこの異人館は北野天満宮のすぐ西側にある。

明治四十二年にドイツ人の貿易商、ゴットフリート・トーマス氏の邸宅としてドイツ人の建築家ゲオルグ・デラランデの設計で建てられた。赤レンガと石造りの地上二階、地下一階で、塔屋つき寄棟造り。塔の頂に取りつけられている風見鶏は、悪魔を払うといわれている。

一階は玄関ホール、食堂、居間、応接室、書斎、ベランダで、居間にはトーマス氏の娘エルゼ・カルボー夫人（西独フランクフルト在住）から贈られた昔この家で使われていた家具がおかれ、往時を偲ぶことができる。二階には調度品はなくギャラリーとして使える。重要文化財に指定されている。スリッパとのはきかえが必要。

見事な造形の見られる——白い異人館

旧シャープ邸で故小林秀雄氏が使用していた。

明治三十五年にメイ・アデレイド・シャープ氏の依頼でイギリス人の建築家A・N・ハンセルが設計をした。

上・庭の広い「ラインの館」
下・港から山の見える「みなと異人館」

上・「白い異人館」から北野町北公園へ
下・いまや神戸のシンボル「風見鶏」

中廊下をもつ木造二階建ての典型的な箱型プランの家で、南側には室内にとり入れられているヴェランダがある。玄関ホールのステンドグラスや階段などにかなり豊富な飾りが施こされていて、外観も赤レンガ化粧積の煙突や軒飾りなどの扱いに特色がみられる。青い西洋瓦と白壁のコントラストもいい。

一、二階とも応接セットなど家具調度品はそのまま展示されている。それも、たとえば、テーブルの上に無雑作におかれたタロットカード、チェスなど、生活の感じられる演出がなされている。ヴェランダには絵ハガキコーナーあり。入口でスリッパとはきかえること。

風見鶏の館と白い異人館の真中にあるのが北野町中公園。北側に使われている門柱は、旧外国人居留地京町八十三番の英国商館ジャーデン・マセソン商会の門柱として使われていたもので、明治三十七、八年頃の構造。貴重な明治の文化遺産である。

庭の広い――ラインの館

旧ドレウェル邸で、明治三十二年ドレウェル氏の依頼でハンセルが設計した。木造二階建て寄棟造りで、二階中央の突き出した部分の三角形の妻部に「M」の字の花模様の細工が施こされている。

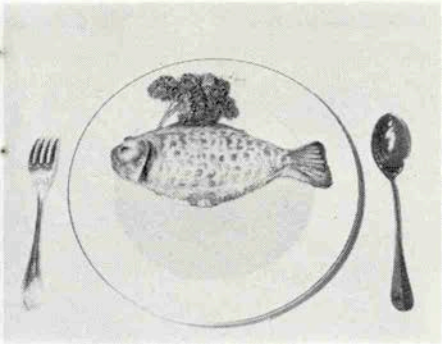
ちょっとしたミニコンサートに使えそうな石造りの舞台のある広い庭とテラスがあり、一階はユーハイム経営の喫茶室と売店（ドイツグラスなどがある）、神戸市民生協組の案内コーナー、二階はギャラリーなどに使える。ここはクツのまま入れる。

海から市街地の臨める――みなと異人館

かつて北野町四丁目にあり日本郵船生田寮として使われていたものをポートアイランド北公園に移築した。

木造二階建て寄棟造りで日本黒瓦葺きオイルペンキ塗り。一階には神戸タワーサイドホテル経営の喫茶室がある。ポートアイランドの〝文化施設〟の一つである。

Ⅱ
食べある記



香りも素敵な舌平目のパイ包み焼

オーナーであり、シェフである山崎良平さんと

★何が美味しいの？　とたずねてみよう。

「ビストロ・ドゥ・リヨン」、本場のフランス料理と雰囲気を味わわせる店として、最近とみに評判が高い。マスターの山崎さん、四年間、フランスのリヨンでの修業ののち、五年前のパリ祭の日、七月十四日にこの店を開いた。厳しかった師匠の、ジャン・マーク・アリックス氏の教えをかたくなに守り、食器、スプーン、ナイフから、表のペンキまでフランス製である。おまけに、今度は、店の名前入りのワインまで、ブルゴーニュ地方から特別あつらえ。日本中にフランス料理店数あれど、ここまできっちり、というか、こってる店はまあ少ないだろう。ちなみに、ワインの数は五十種以上揃っている。

さて、私が食べたメニュー。まず、生うにとほたて貝のテリーヌ。うには私の大好物。かすかに潮のかおり。ムール貝のポタージュ、こってりした食べごこち、というか、飲み心地。次に出て来た、これが最高、一度は食べてごらんあれ、舌びらめのパイ包み焼き、っていうんだけど、パイで出来た実に見事な一匹の魚、フォークでおなかのあたりをつついてやると、中からひらめのおいしい身が出てくる。パリッと焼き上ったパイの皮と白身の魚が良く合ってくる。鴨のあみがさだけ。鴨を二、三日赤ぶどう酒でつけ込み、フォアグラをといて濃度をつけ煮こんだもの、これもおいしかった。最後のお菓子、タンバル・エリーゼ。食べるのがもったいない位の可愛らしさ。

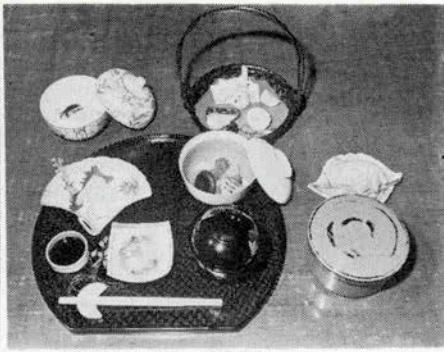
ここは、週変り、月変りのメニューということで、つまりはマンネリを避けるというより、料理人の味の向上、常においしいものを作ろうとする緊張感のためだとか。知ったかぶりは通用しない。今月のおいしいものは何かと聞いてみよう。ワインはどれが良いのか尋ねてみよう。そんな店である。

★懐石料理は心を豊かにする

栄弥が、懐石料理を始めた、と聞いたのはいつだった

●小山乃里子の華麗なる

いろとりどりの季節ものを説明するご主人の山崎雄之さん



器も凝った栄弥の懐石料理

ろう。去年の6月から、ということだから、多分秋ぐちだったのか。天ぷら、お寿司、そして鍋物では、つとにその名を知られ、もう三十年以上の老舗である。

新しい試みを始めたには、それだけのわけがあるにちがいない。味もとっくりあじわってみなくっちゃあ。のっけからお金のこともなんだけど、懐石料理、五千円である。これから書く内容を見てもらった上で判断いただけば良いけれど、京都なんかじゃ、目をむくような値段を考えると、私はずい分安い、と思った。ただし、時間制限がある、昼下りの二時から五時まで、まあ、少し遅い昼食というべきか、少し早めの夕食というべきか、とにかく手間のかかるものばかりなので、こういうことになったという。懐石といえば、まず器である。京ものをベースに、有田焼やらなにやら、まあ実にすてきな器が揃っている。「こんなんも買ってみたんです」、御主人が次から次に出して来られる器、みんな持って帰りたくなった。さて、かんじんのお料理。半月のおぼんの上には、なまこにおろし、上にかわいくいくらがのってる。鯛のお造りの横のしその花、うす紫のりんどうのよう。こちらの器、ふたを取れば、かぶらのとりみそかけ、京いも、ふき、しいたけ、人参がよりそってる。籠の中にはえびの天ぷら、半分に切られた玉子の黄色の横に、色どりもきれいな赤い実、塩ぬきした梅を、はちみつでことこと煮こんだものとか、ことの他おいしかった。こちらには茶そば、山いもをかけて、もっともこれは季節によって変る、すいもの、御飯、まあなんと、むかごの御飯だ。これも季節により、たけのこになったりわらびになったり。むかごを取った幼い頃の思い出に花が咲けば、それだけで料理は生きる。懐石料理は心を豊かにする。

ビストロ・ドゥ・リヨン
生田区山本通2丁目40－1 ☎221－2727

栄弥
本店／生田区三宮町2丁目26 ☎331－5772
支店／さんちかタウン味ののれん街 ☎391－5233

ファション学講座

LESSON・2

すてきな でもの

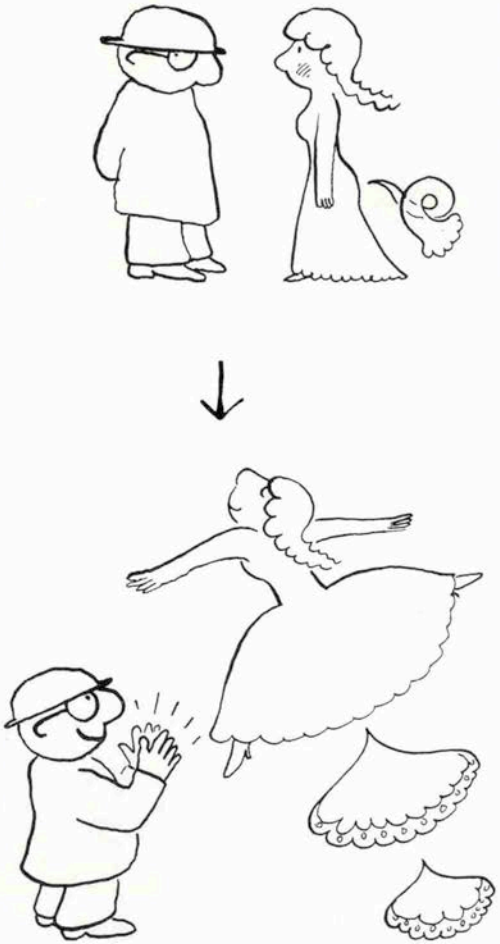
★

講 師

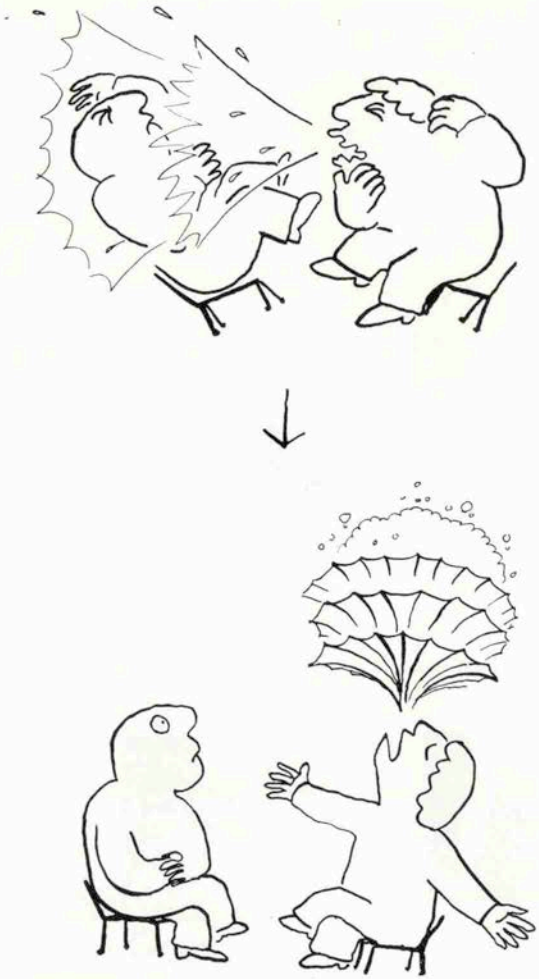
岡田 淳

↓

げっぷ



おなら



くしゃみ

KOBE FASHION SPOT

★うろこの家さよならフェアに MA・VIEのショー、にしむらのパーティ

NHKの「風見鶏」ブームにさきがけて、神戸市が一昨年の10月より、北野町の異人館「うろこの家」を観光客向けに一般公開。静かだった住宅街は時ならぬケタタマシサに驚いたが「うろこの家」は大好評で80万人の見物客がこの一年に立寄った。「白い異人館」「ライインの館」などの公開異人館も増え、大役を果した「うろこの家」は12月24日をもって閉館18日より〝さよならフェア〟が開かれた。

12月20日は喫茶室で好評を得た「にしむら珈琲店」が、神戸青ちのヅカスター鳳蘭を迎えてフィナーレパーティを開き、小山乃里子の司会、サントノーレハウスバンドの出演、新井満もゲストに加わって約一五〇人が名ごりを惜しんだ。また24日は、旧スタデニック邸でブティックを開いている「MA VIE」の今村和子さんが2時からファッションショーを開き、毛皮のコートや、パーティドレスなどの華やかな装いが、神戸を望む美しい風景にはえて「うろこの家」のさよならにふさわしかった。

シルクサテンのドレス

★トータルファッションを楽しみましょう

芦屋のエレガントハウスフジイ芦屋店オープンの満一周年記念式典が12月6日午後1時より、グリーンランドテニスクラブ内のレストラン千暮里で日頃のお客さまを招待し催された。

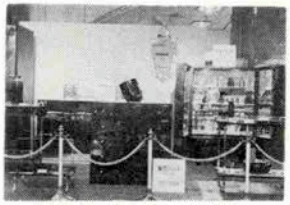
オーナーの財団法人藤井学園、東亜美容学校の理事長であり、世界美容連盟の副会長を務める藤井士郎氏と同妙子夫人（フランス美容芸術技術協会日本支部会長）の挨拶のあとお客さんが2名モデルになって芦屋店々長とチーフがパーティ向けのセットを披露。ピアノ演奏をバックに土佐越さんが着つけと帯の結び方をユーモラスな説明で紹介し、第3部では藤井妙子さんがヘアーを、雨宮ユキさんデザインのドレス、藤田ジュリオさんのアクセサリー、岡本輝美さんのメイクで華やかなファッションショーを見せた。「お客さん方が楽しくお洒落をして外へ出掛ける機会をつくり、小さなサロンを育てていきたい」と藤井氏は語っていた。

エレガンスハウスフジイ／芦屋 32 7315
大阪 079 0374

後段、右端が藤井妙子さん

★総額2、000万円の超高級家具を一堂に

イタリアのアルド・ツーラー社の家具が、そごう神戸店1階ジャンボホールに1月15日（月）から31日（水）まで展示された。アルド・ツーラー社は1933年ミラノに創立された特異な家具メーカーで、山羊皮張りの家具はうちぞりとそとぞりを防ぐために、特殊な合板が使用され、その上に紙のように薄い山羊の皮を色染めして張りつけ、更にポリエステル加工をほどこすという手の込んだもの。今回は赤と緑系統が展示され、深い輝きがまさに「現代の名品」にふさわしい。お値段も超高級だが展示中に330万円もする三面鏡3点セットやタンスなど1、000万円相当が売れるなど、ブルジョワに仲々の評判だ。


アルド・ツーラー社の逸品

★ちびっ子たち、乗馬パンツに挑戦！

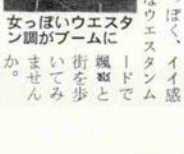
オールスタイル（本社・生田区伊藤町）の子供服部門、えるみが発表したこの春のファッションの特徴は写真のようなウエスト部分にゆとりがあって裾を絞ったにんじんパンツや、同じようなシルエットで裾を釦でとめる乗馬パンツなど、なかなかユニーク。これらのパンツはピンク、ラベンダー、ホワイトなどの色で素材はパイル、厚手綿楊柳タイプと伸縮自在で動き易くできている。共地のトレーナーやベスト、Tシャツなどと組み合わせポシェットでも添えればお洒落っぽい雰囲気で、男女児の区別なくカジュアルウエアとして重宝する。2才～7才用まで、価格は写真の上下で7、500円。神戸では鈴屋、そごう百貨店などで発売中。

乗馬パンツ

★この春、ウエスタン調でディスコへ

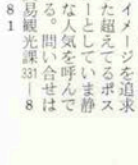
今、ヨーロッパではアメリカ的なものが流行し、その典型的なものとしてウエスタン調が見直されているようです。そんなウエスタンの風を女っぽくアレンジしたCOMMEdes GARçONSのワンピースやスカート、ベスト、シャツなどがこの春とても新鮮です。綿の胸とポケットに刺しゅうをほどこしたウエスタン調のワンピースは、スカーフやデニムのベストを組み合わせて、少しルーズに着こなすと不思議に女っぽく、イイ感じ。重たい冬服の後は軽やかなウエスタンムードで颯爽と街を歩いてみませんか。

■コム・デ・ギャルソン／北野町異人館通り ローズガーデン2F☎222－1510


女っぽいウエスタン調がブームに

★風を感じるまち＝KOBE

酒蔵へながれる時は過去を形にする∨六甲山へさすらう風は言葉を詩にする∨須磨へあふれる光は心を透明にする∨。これらは神戸のイメージを追求した超えてるポスターとしていま静かな人気を呼んでいる。問い合せは貿易観光課331－8181



神戸もとまち
大丸
(078)331-8121

大丸のテーマ
80年代へ、いきいき宣言!!

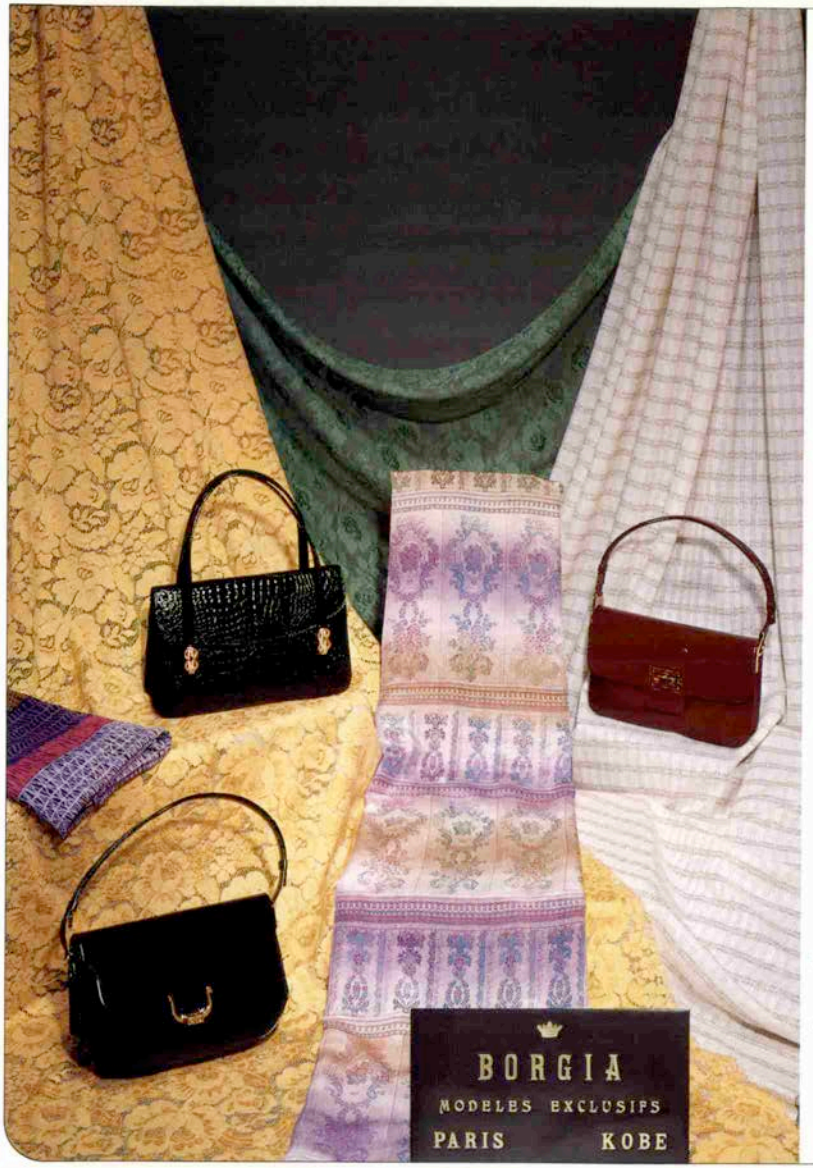
alain Lahlou
19, rue de l'Odéon - 75006 Paris
tél. 033.46.24.

alain Lahlou
19, rue de l'Odéon - 75006 Paris

春は、スポーツみたいな毎日にしたい。

健康的なスポーツルック。息はずませながら、春の情報を代表してやってきました。無地の単品どうしの組合わせ、とてもカラフルなのにご注目。これまでタブー視されていた意外な配色も新鮮です。あなたのボディーを一枚のカンバスにみたてて、はらはら、どきどきするようなヘルシーカラーをお楽しみください。

●2階レディースフロア



THIS IS KOBE

セレクトされた世界の服地とパリより直輸入のフレンチバッグの代表、〝BORGIA〟の手作りの逸品。
神戸らしさを大切にしたい貴女にふさわしい品々を揃えてお届けします。

舶来服地とオーダーブティック
Suinwa
生田区三宮町センター街 ☎331-3098
・321-6200 さんちか店 ☎321-5254
11：00AM～8：00PM 第2,3水曜休

美しい装い ゆとりの〝時〟

ファッションと
宝飾のブティック
フレンチエ
O-MURA
KOBE/三宮さんプラザ2F
tel 391－3796

三宮で生まれて三宮で育って61年
時計／宝石／貴金属
神戸 三宮時計店
センター街店 TEL 331－3691
さんちか店 TEL 391－4663
京町店 TEL 321－1267

時計／宝石／貴金属
大阪 おおむら
三番街店 TEL (06)372－0061
虹の街店 TEL (06)213－6061

早春のときめきを。

POÉTIQUE

KOBE
まさ

■神戸　さんプラザ店
　　さんちか店
■大阪　千里阪急地下街店
　　阪急ファイブ
　　西武高槻店
　　泉北パンジョ店
■宝塚　阪急ファミリーストア店
■大津　西武大津ＳＣ店

雰囲気のあるさわやかさ

●エンジョイ・ビーフ〈2月〉

今月のお客様／松本　宏さん〈洋画家・左〉　松本　幸三さん〈テノール・二期会〉

「やっぱり神戸ビーフですね。神戸館のまろやかな肉の味、それにサラダやワインも美味ですね。声を出す仕事で、スタミナもけっこういるんです。毎日のように食べですばらしい声を出さなくては……」と、七月に公演される小沢征爾指揮によるオペラ「トスカ」のカバラドッシ役の練習に入って張り切る松本幸三さんと、応援するのは次代を担う実力派洋画家、兄の宏さん。

ステーキ＆ドリンクス

神戸館

神戸市生田区下山手通2丁目29-5　アマツビル1F（生田新道）☎321-2955　PM5:00～PM11:00　日祝休み

「アン」&神戸

僕の描く女の人は神戸の女性だと…

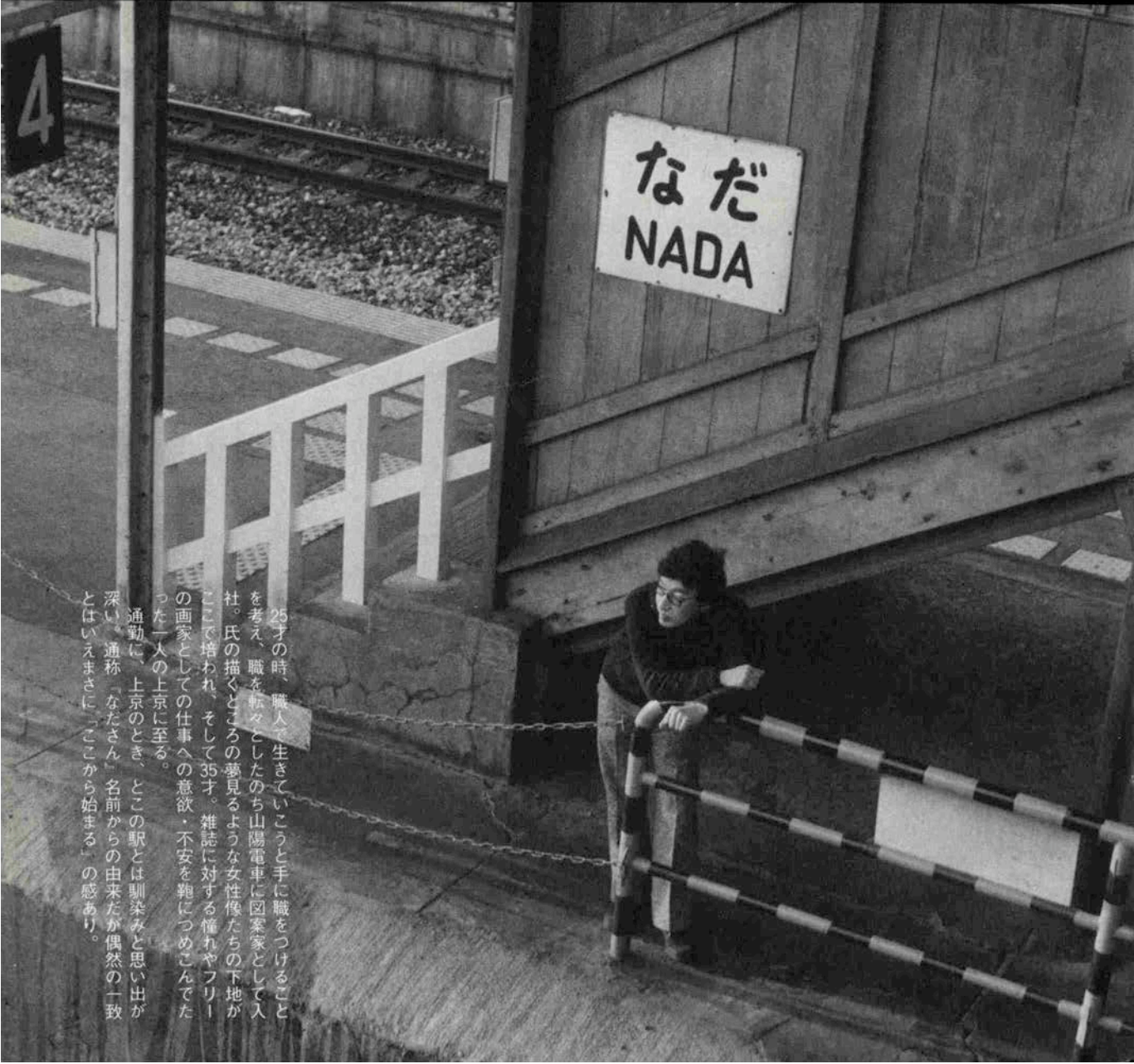
灘本 唯人（なだもと ただひと）

撮影／後藤 孝

「酒倉かいいんじゃないですか……」と測々と歩いてます。本当は人見知りが激しい性質とおっしゃるが、楽しいおしゃべりは話題といい、話しっぷりといい、特級。交友関係も広く、その交友のうち10年近くも永六輔や中村八大たちと俳句の会を続けている。

玉つきの　台平分の　西陽かな
春めきて　出前どおしの　立ち話

庶民句を得意とするみたさん。酒倉の前がよく似合います。



25才の時、職人で生きていこうと手に職をつけることを考え、職を転々としたのち山陽電車に図案家として入社。氏の描くところの夢見るような女性像たちの下地がここで培われ、そして35才。雑誌に対する憧れやフリーの画家としての仕事への意欲・不安を鞄につめこんでたった一人の上京に至る。

通勤に、上京のとき、とこの駅とは馴染みと思い出が深い。通称「なださん」名前からの由来だが偶然の一致とはいえまさに「ここから始まる」の感あり。

神戸小学校の54回生である。三宮（今の神戸新聞社のあたり）で生まれ、この学校に越境入学した。当時は映画、食事ともども盛んだったのは新開地の方で常に一目置いていたとか。モダンな絵を描く人だけど、「新開地が好きなんです」いずれ神戸に戻って、高台に住みゆっくり絵を描きたいと故郷神戸への思いは強いものがある。

（神戸小学校時代の同級生、豊原さん（中）大丸前のセリザワ社長芹沢さん（右）と一緒に。やあ久しぶり）

さてと、「なださん」というともう一つの顔が―。渋谷でリサイタルを開催（構成・演出　和田誠、ゲスト。岸洋子）したほどの唄好き。演歌からシャンソンまでレパートリーも広く、そして上手いんだなあ。昔々ＮＨＫで鐘をならしたこともあると、とって置きの話を聞かせてくれました。

（故郷秋田を初の個展となった所作まの神が時代にて、なつかしい友人知己に囲まれて）